

スポーツ健康科学総合研究所×  
スポーツ庁委託事業「先端的スポーツ医・科学研究推進事業」  
ハイパフォーマンス・アスリート極限支援研究拠点主催シンポジウム

# アスリートから 健康寿命の延伸まで

## —スポーツの新たな価値—

2023年5月12日(金) 15:00-17:30 (14:45開場予定)

- びわこ・くさつキャンパス ラルカディア101
- オンライン: Zoomミーティング

本シンポジウムは、2022年度立命館大学に新たに創立したスポーツ健康科学総合研究所と、スポーツ庁事業が主催となり、本事業に携わっていただいているハイパフォーマンススポーツセンターからも講師として参画いただきます。

競技スポーツから健康寿命の延伸に関する最先端研究について、また、国内・海外からみたキャリアパスについて様々な分野の方とともに検討してまいります。

参加  
無料

参加申込はこちらから

<https://bit.ly/230512spo>

◎ 申し込み締め切り: 5月8日(月) 正午



PROGRAM

15:00 開会挨拶 岡田 志麻 (立命館大学スポーツ健康科学総合研究所 副所長 / 立命館大学工学部 教授)

15:10 「人財育成：若手研究者のハイパフォーマンス・コア・サイエンティストに向けて」  
司会：笹場 育子 (立命館大学スポーツ健康科学部 准教授)

講演1 「海外の事例から」 田中 弘文 先生 (テキサス大学キネシオロジー学部 教授)

講演2 「国内の事例から」 清水 和弘 先生 (独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター 前任研究員)

15:53 「最先端研究：スポーツ科学の未来と課題」 司会：家光素行 (立命館大学スポーツ健康科学部 教授)

講演3 「代謝の観点から」 後藤 一成 (立命館大学スポーツ健康科学部 教授)

講演4 「脳の観点から」 橋本 健志 (立命館大学スポーツ健康科学部 教授)

講演5 「神経の観点から」 渡邊 航平 先生 (中京大学スポーツ科学部 教授)

講演6 「循環の観点から」 田中 弘文 先生 (テキサス大学キネシオロジー学部 教授)

17:20 閉会挨拶 塩澤 成弘 (立命館大学スポーツ健康科学部 教授)

主催：スポーツ健康科学総合研究所・スポーツ庁委託事業「先端的スポーツ医・科学研究推進事業」ハイパフォーマンス・アスリート極限支援研究拠点  
共催：立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科 協力：独立行政法人日本スポーツ振興センター、一般社団法人大学スポーツコンソーシアムKANSAI (KCAA)、一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS)、アクティブライフ共創コンソーシアム、日本スポーツ体育健康科学学術連合  
お問合せ先：立命館大学 研究部 BKCリサーチオフィス 担当：森、高須 MAIL: spo-ins@st.ritsumei.ac.jp TEL: 077-561-2802



スポーツ健康科学総合研究所・スポーツ庁委託事業「先端スポーツ医・科学研究推進事業」  
ハイパフォーマンス・アスリート極限支援研究拠点主催 シンポジウム  
アスリートから健康寿命の延伸まで—スポーツの新たな価値—  
開催報告

スポーツ健康科学総合研究所主催シンポジウムを開催しました。

2023年5月12日（金）立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおいて

スポーツ健康科学総合研究所・スポーツ庁委託事業「先端スポーツ医・科学研究推進事業」

ハイパフォーマンス・アスリート極限支援研究拠点主催シンポジウム

「アスリートから健康寿命の延伸まで—スポーツの新たな価値—」を開催しました。

開催当日は現地参加 83 名、オンライン参加 149 名、合計 232 名の方々にご参加いただきました。

### 開会挨拶

立命館大学理工学部 教授/ 岡田 志麻先生（本研究所 副所長）による開会挨拶をおこない、本研究所の紹介、本事業の概要とシンポジウム趣旨をご紹介しました。



### 「人財育成：若手研究者のハイパフォーマンス・コア・サイエンティストに向けて」

司会：笹場 育子（立命館大学スポーツ健康科学部 准教授）

#### 講演1 「海外の事例から」

テキサス大学キネシオロジー学部教授の田中弘文先生により、田中先生が海外に留学し、海外でのポストを得るまでの海外におけるキャリアパスについてご講演いただきました。

#### 講演2 「国内の事例から」

独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター前任研究員の清水和弘先生により、清水先生の博士号取得からトップアスリート支援に至るまでの国内におけるキャリアパスについてご講演いただきました。

田中先生、清水先生には現在のお仕事について、またそれぞれの学生時代の考え方やキャリアパスについてのきっかけをお話いただきました。将来アメリカや海外で働くことを考えている学生などから様々な質問があり、自身のキャリアパスを考え、イメージをするきっかけとなりました。

## 参加者からの感想

「国内外で活躍される研究者の、キャリアパスから研究内容を知ることができ、今後の見通しのイメージとモチベーションに繋がることができた。「素晴らしい研究内容、またどういう風に研究することが重要なのか、そこに対するアプローチの仕方、心構えなどを学ぶことが出来た」「普段あまり馴染みのない、海外での研究や院での生活についても教えてもらうができた」など多々ご感想をいただきました。



### 「最先端研究：スポーツ科学の未来と課題」

司会：家光素行（立命館大学スポーツ健康科学部 教授）

#### 講演 3 「代謝の観点から」

立命館大学スポーツ健康科学部教授の後藤一成先生により、最先端研究：スポーツ科学の未来と課題において、代謝の観点からご講演いただきました。

#### 講演 4 「脳の観点から」

立命館大学スポーツ健康科学部教授の橋本健志先生により、最先端研究：スポーツ科学の未来と課題において、脳の観点からご講演いただきました。

#### 講演 5 「神経の観点から」

中京大学スポーツ科学部教授の渡邊航平先生により、最先端研究：スポーツ科学の未来と課題において、神経の観点からご講演いただきました。

#### 講演 6 「循環の観点から」

テキサス大学キネシオロジー学部教授の田中弘文先生により、最先端研究：スポーツ科学の未来と課題において、循環の観点からご講演いただきました。

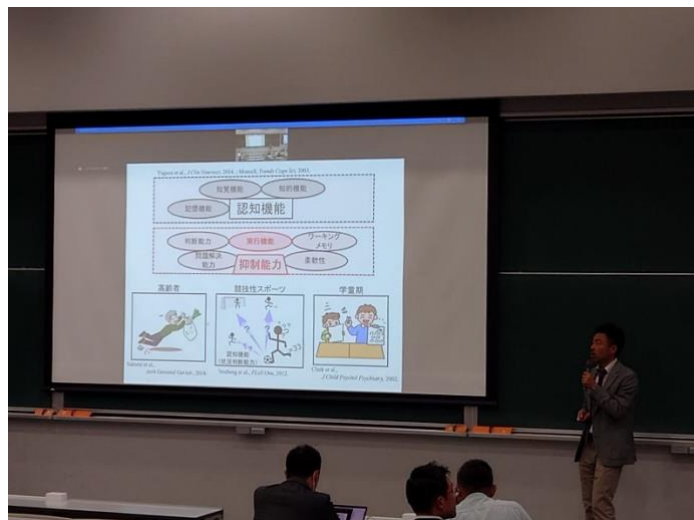
後藤先生、橋本先生、渡邊先生、田中先生には最先端の研究内容、研究動向についてもお話いただきました。様々な分野の観点からご講演をいただき、普段は聞きなれないような専門分野以外の研究についても最新の知見を得ることができました。

また、現地やオンラインでの質問も多く、大変盛り上がった内容となりました。



## 参加者からの感想

「先生方からの最先端の研究内容を拝見し、自身の研究も更に精力的に頑張ろうというモチベーションに繋がった」「今まで受講していた講義がどのように先端につながっているかを実感することができた」「いつも自身の分野のみに焦点が当たっているため、視野が狭くなっていることに気がついた。様々な分野の最先端に触れることで新たな発見があるシンポジウムだった」など、こちらも多くのご感想をいただきました。



## 閉会挨拶

立命館大学スポーツ健康科学部教授の塩澤成弘（先端的スポーツ医科学研究推進事業の副責任者）よりご挨拶を行い、ご講演いただいた先生方のキャリアパス、また最新の知見について貴重なご講演から、本事業での人材育成、最先端研究の両輪を回しながら、「極限支援研究拠点」のもと、人材育成、研究とアスリートの支援も極限に、こういった支援ができるか考えながら進めていきたい意向をお伝えしました。



本研究所の先端的スポーツ医科学研究推進事業に採択された本事業では、スポーツ医学、情報科学、工学など分野を横断してアスリートの支援と研究人材育成に取り組んでおります。本シンポジウムでは、主に若手研究者の人財育成について焦点をあて、競技スポーツから健康寿命の延伸に関する最先端研究について、また、国内・海外からみたキャリアパスについて検討しました。

今後もスポーツ庁、HPSC を含めた様々な団体と連携して世界最先端の研究に取り組み、スポーツ科学の先端的研究者を育成、また「ハイパフォーマンス・アスリート極限支援研究拠点」の設置を目指し、成果を社会に還元するよう努めてまいります。